

# 第6学年 社会科学学習指導案

社会科学研究室

## 1 小単元名「徳川家光と江戸幕府の政治」

## 2 小単元の考え方

### こんな児童だから

#### <学ぶ意欲・態度>

本学年の児童たちは、歴史学習に対する興味・関心は高く、意欲的に学習に取り組んでいる。

1学期の学習では、社会的事象を追究したり調べたことを意欲的に図や文章で表現したりする姿が見られるようになってきた。

#### <問題を解決する力>

- 「聖徳太子と法隆寺」「源頼朝と鎌倉幕府」の学習では自分の課題にそって、教科書などの文書資料にアンダーラインを引き、必要な情報を書き出すことはできるようになってきている。しかし、写真・グラフ・年表などの資料の読み取りについては十分とはいえず、今後とも指導を要する。
- 本小単元における学習問題つくりの場面では、以下のような年表から、学習問題を設定し、学習問題の答えに対する予想と追究の視点を明らかにするとともに、見通しを持つことができた。



- 児童が年表から読み取った事実
- ・ 秀忠の武家諸法度・家光の武家諸法度
  - ・ 参勤交代
  - ・ 外国の名前が多い
  - ・ 外国との関わりを禁止している
  - ・ 家光の時代に鎖国が完成している。
  - ・ 五人組という農民の決まりができています。
  - ・ 農民へ御触書が出ている。
  - など

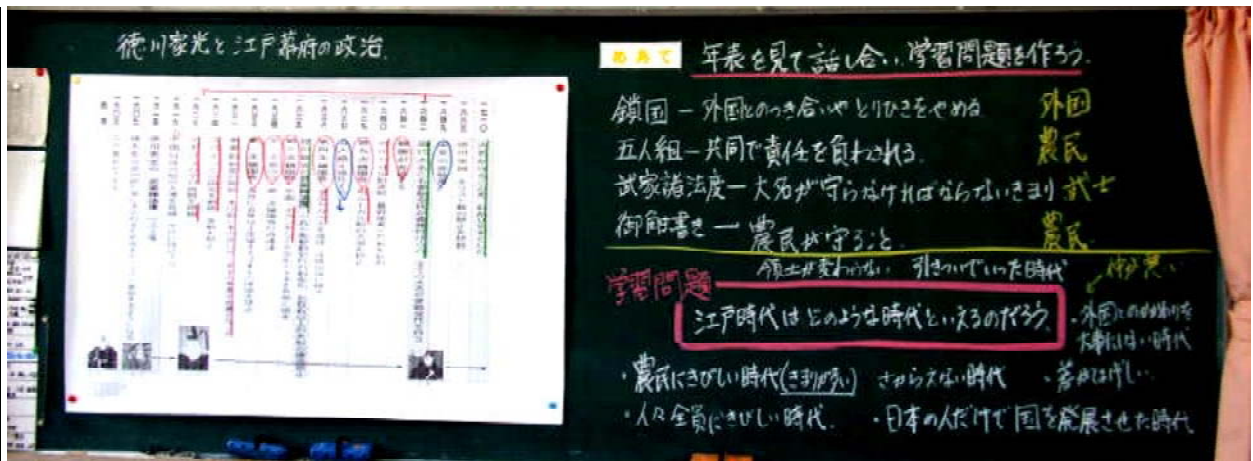
(資料1 学習問題づくりの場面で使用した年表)

- 学習問題作り
  - ・ 年表の読み取りを通して児童の中に江戸時代はどんな時代だったのか、課題意識が生まれ、児童なりの予想を持つことができた。

学習問題  
「江戸時代はどのような時代といえるのだろう。」

予想

- ・ 農民に厳しい時代
- ・ 人々全員に厳しい時代
- ・ さからえない時代
- ・ 外国との関わりを大事にしない時代
- ・ 幕府と武士、農民の差が激しい時代
- ・ 日本の人だけで国を発展させた時代



(資料2 学習問題作りの場面の板書)

- 児童が導き出した追究の視点と見通し
  - ・ 鎖国政策について調べる
  - ・ 武士のとりしまりについて調べる
  - ・ 農民のとりしまりについて調べる

「江戸幕府が行ったこの3つの制作を調べれば、江戸時代がどのような時代であったかわかるだろう。」

#### <生きて働く知識（見方・考え方）>

児童たちはこれまでの歴史学習において、鎌倉幕府や室町幕府は体制を維持するために様々な政策を行ってきたという見方を持っている。そして、幕府の仕組などを工夫してきたことに気がついている。児童が持つこれらの見方を活かして、江戸時代は、武士を中心とする身分制度や鎖国政策を打ち出すことで、政治体制の安定を図っていった時代であるという見方を持たせる。さらに、町人文化や新しい学問が興った安定した時代でもあるという見方も持たせ、時代を多面的に見る学習を組み立てていきたい。

### こんな教材で

本小単元は新学習指導要領の目標「(1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てるようにする。」に関わる学習である。徳川家康や家光は、武家諸法度に代表される大名統制、慶安の御触書に代表される農民統制などの政策を行い、武士を中心とする身分制度や鎖国政策を打ち出すことで、政治体制の安定を図っていったことがわかることをねらいとしている。

鎖国（さこく）は、江戸幕府が日本人の海外交通を禁止し、外交・貿易を制限した政策のこと。また、そこから生まれた外交関係における孤立状態を指す。しかし、実際には孤立しているわけではなく、外交だけでなく貿易の権限を幕府が制限・管理した体制である。

武家諸法度の内容は、「①文武の奨励、②遊樂の禁止、③犯罪者隠匿の禁止、④謀叛人・殺害人の追放、⑤他国人の追放、⑥居城の修補や新造の禁止、⑦隣国の徒党者の上訴、⑧無断婚姻禁止、⑨参勤作法の指示、⑩衣装の統制、⑪乗輿（じょうよ）の制限、⑫儉約の奨励、⑬家老らの人選の適正化などである。なお、武家諸法度は3代将軍家光の時代に19条となり完成した。

慶安御触書は、江戸時代、慶安2年（1649年）第3代将軍徳川家光が出されたといわれる御触書で『徳川禁令考』に収録されている。百姓に対し贅沢を戒め、農業など家業に精を出すよう求めたもので、32ヶ条と奥書から成り立つ。

以上のような江戸時代の政策を中心にしながら、江戸時代はどのような時代であったか価値判断を迫る。その際に、年表の特性を活かして、時代を見ることを通して、江戸幕府が武士を中心とする、政治体制の安定を図っていったことを捉えることができる。

また、江戸時代は、安定した時代であり近松門左衛門による歌舞伎、歌川広重の東海道五十三次などの町人文化や、杉田玄白、伊能忠敬、本居宣長などによる、蘭学や国学などの新しい学問が興った時代でもある。このように、ひとつの時代を多面的に見ることができる。

## こんな指導構想で

### 研究内容①年表の特性を活かした、学習問題の設定。

- 新学習指導要領の目標「(3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」に関わって、年表を活用した学習を組み立てる。

年表には、時間的な位置付け・前後の関連を見る・今昔の相違・時代の変遷・時代の特色・因果関係などを読み取ることができるという特性がある。本小单元では、この中でも、年表の時代の特色を読み取ることができるという特性を活かして学習を行っていく。学習問題つくの場面では、江戸時代の政策が完成するまでの前半の年表を読み取りながら「江戸時代はどのような時代といえるのだろう。」を設定する。この学習問題によって、次の小单元「町人文化と新しい学問の興り」までを通して、年表の活用を図りながら社会的事象の意味をより広い視野から考えさせ、江戸時代全体に対する歴史的な見方や考え方を育成することができると思う。

### 研究内容②各段階における年表の位置付け。

本小单元では、考えを深めるために、年表活用した交流活動を下図のように位置付ける。

- つかむ段階では、年表を通して読み取って事実から、学習問題「江戸時代はどのような時代といえるのだろう。」を設定する。次に学習問題に対する予想を考えた後、明確にされた視点をもとに追究する。
- さぐる段階では、年表や文書資料などを使って追究し事実認識を行う。その際には調べてきた事実をもとに調べたことを整理する。
- まとめる段階では、整理された事実をもとに、事実を再構成しながら自分の考えを図に表し交流を行う。交流では年表を活用した全体交流を行う。交流後、考えを付加・修正する。これらを通して考える力を育成することができると思う。

つかむ	さぐる	まとめる
<div style="border: 2px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">                     年表を使った交流                 </div> <p style="margin-top: 10px;">学習問題つく 究の視点の 設定。追</p> <p style="margin-top: 10px;">年表の活用 読図の活動①</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">                         少人数の 交流                     </div> <p style="margin: 0 10px;">文書資料、年表 などを使った 追究活動</p> <div style="border: 2px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">                         図を使った 交流                     </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">年表の活用 読図の活動②</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">                         図を使った 交流                     </div> <p style="margin: 0 10px;">関係認識、 価値認 識を図る交流</p> <div style="border: 2px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">                         年表を使った 交流                     </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">考えを深める 交流</p> <p style="margin-top: 10px;">年表の活用 再構成する活動②</p>

学習問題の答えを文章化

(資料3ー学習過程における年表の位置付け)

### 研究内容③ 年表の内容と、示の工夫。

- ① つかむ段階における年表の活用目的と内容、示の工夫。
- 学習問題つくのために。
    - ・江戸時代の様子に興味を持たせ、問題解決の追究意欲を高めるために年表を示す。
  - 江戸時代の政策が読み取れる内容のものを（資料1）
    - ・江戸時代の政策が出そろったまでの163年から1817年までの幕府の様々な政策が見えるもの。
  - 業のはじめから示し、事実を読み取っていく。
    - ・学習問題つくを行う全体交流の場面において、年表を一つ一つに読み取らせる。
- ② さぐる段階における年表の活用目的と内容、示の工夫。
- 事実を整理していくために。
    - ・学習問題の予想をもとに、江戸時代の様々な政策を調べて整理する過程において、どのような政策が、あるのかを見るために活用する。
  - 江戸時代の政策が読み取れる内容のものを（教科書・読本など）。
    - ・163年から1817年までの幕府の様々な政策が見えるものに限らず、教科書や読本の年表で家光の年表や、様々な出来事がかかれたもの。
  - 児童の必要に応じて、それが活用する。
    - ・ここでは教員による示ではなく、児童が必要に応じて、資料として活用していく。
- ③ まとめる段階における年表の活用目的と内容、示の工夫。
- 自分の考えを再構成させるために。
    - ・「江戸時代は決まりが多くて厳しい時代」「武士を中心とする身分制度や鎖国政策を打ち出すことで、政治体制の安定を図っていった時代」という見方を持っている児童に対して、「国が安定し、町人の文化が盛んな新しい学問が興った。」という別の視点で江戸時代を見るために年表を示す。
  - 江戸時代に発した文化や学問の様子が読み取れるものを。
    - ・ここで示するのは近松門左衛門による歌舞伎、歌川広重の東海道五十三次などの町人文化や、杉田玄白、伊能忠敬、本居宣長などによる、蘭学や国学などの新しい学問の様子が読み取れるもの。
  - 児童が自分なりの考えを持つことができた時点で示し、事実を読み取らせる。
    - ・江戸幕府の様々な政策を調べ、自分なりの考えを持った時点で、新たな資料として年表を読み取らせていく。その際には、教科書を使って意味がわかりやすいものは調べさせる。

以上のような内容、示の工夫を行うことによって、年表を効果的に活用していく力を育てるとともに、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てていきたい。

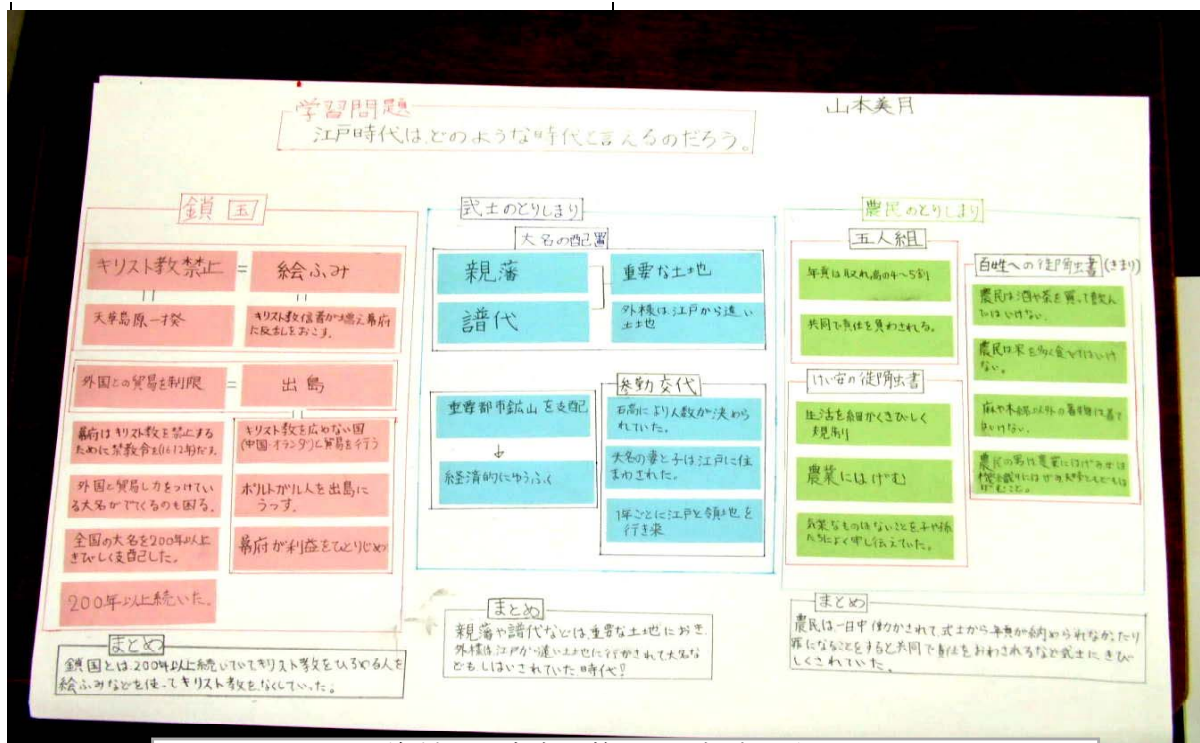
## こんな目標と指導計画で

### 3 小単元の目標と指導計画（全13時間）

- 学ぶ意欲・態度
  - ・ 江戸幕府が26年以上もいたことに関心を持ち、江戸時代の様子を意欲的に調べることができる。
- 問題を解決する力
  - ・ 体験活動や生活学習などをもとに、学習問題「江戸時代はどのような時代といえるのだろう。」に対する考えを出し、自分の課題を持つことができる。  
(課題を発見する力)
  - ・ 武家諸法度による大名統制や慶安の御触書に見られる農民統制、身分制度の確立、鎖国政策などの江戸幕府の政策について調べ多様な視点から事実を調べたり、整理したり、図にまとめたりすることができる。  
(調べる力)
  - ・ 徳川家光と幕府が出した武家諸法度、慶安の御触書、鎖国令などから、権力を維持するための決まりをつくり、様々な工夫をして、その時代を安定させようとしたことや、町人文化や新しい学問に象徴されるように、人々がたくましく生きていたことについて考えることを通して社会的事象の意味をより広い視野から考えることができる。  
(考える力)
  - ・ 江戸幕府にとって重要な政策について調べ、調べたことを整理するとともに考えをつくり表現することができる。  
(表現する力)
- 生きて働く知識（見方・考え方）
  - ・ 江戸幕府は、大名や農民・町人が幕府にさからうことがないように厳しい決まりをつくり、言論を禁止したり、外国との交流を制限したりして江戸時代を長く続かせることができたことや、町人の文化、新しい学問が興ったことを理解することができる。

段階	時	学習活動と内容	
つ か む	2	<b>(6)小単元名『徳川家光と江戸幕府の政治』</b>	
	①	1 資料から気付いたことをしる学習問題をつくり、予想を立てる。 ・ 徳川家康・家光の ・ 誕生年の年表 ・ 家光の（将軍としての力や幕府の力への自信）  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         学習問題                          「江戸幕府の時代は、                          どのような時代といえるのだろう。」                     </div> 2 学習問題を立てる。 ① 読本やよさい子の社会科などの資料を使って調べる。	○ 学習問題をつくるために資料から気づいたこと、疑問に思ったことを発表させる。  ○ 家康・家光の政策を調べる学習問題をつくるために、年表から全体的な流れや変化をとらえ、長秀の下統の時代と比べて大きな違いがなかったことに気付かせる。また、江戸時代に行われている様々な政策について目させおよその意味を知らせる。  ○ 問題解決の見通しを持たせる方法をどのような方法で調べるか確認する。
さ ぐ		3 教科書、読本、資料などをもとに、学習問題について調べ、事実を整理する図をつくる。 ③ (1)教科書・読本・資料などで調べ、調べた事実を視点ごとにまとめる。 ・ 大名に対する考えと政策 ・ 農民に対する考えと政策 ・ 鎖国に対する考えと政策	○ 資料をもとに、多様な視点から事実を調べることができるようにするため、長や秀の政策を想像させる。 ○ 大名をさえるための政策・農民や町人をさえるための政策・鎖国および町人文化をさえるための政策に目をつけるようにするために、3つの視点ごとに資料を示しておく。  ○ 人では十分に追究できない児童のために人または小グループによる追究を行う。





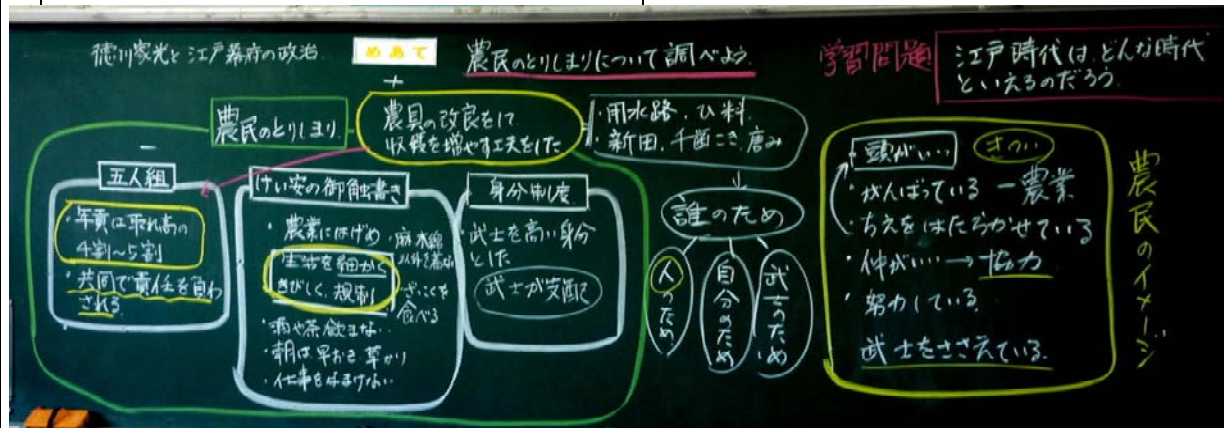
資料 一事実を整理した児童の表現

④

(2) 事実を整理した後、全体交流を行う。

- 全体交流「鎖国について」
  - ・視点 とに調べた事実を発表する。
  - ・発表したことをその場で 味しながら整理していく。
  - ・自分の調べた事実との
- 全体交流「武士のとりしまりについて」
  - ・視点 とに調べた事実を発表する。
  - ・発表したことをその場で 味しながら整理していく。
  - ・自分の調べた事実との
- 全体交流「農民のとりしまりについて」
  - ・視点 とに調べた事実を発表する。
  - ・発表したことをその場で 味しながら整理していく。

- 全児童が 通した事実認識を行うために、江戸幕府の政策について つ つ に事実認識を行う。  
「どのような政策なのか」  
「その政策が幕府にとってどのような意味を持つのか」
- 学習問題に必要な事実をより確かに整理するために、小グー による事実を整理する図の交流を行う。



(資料5 農民のとりしまりについての交流時の板書)

②

それらの考えを発表し、その性やよさについてしよう。

(1) 考えを表した図を使って全体交流を行う。

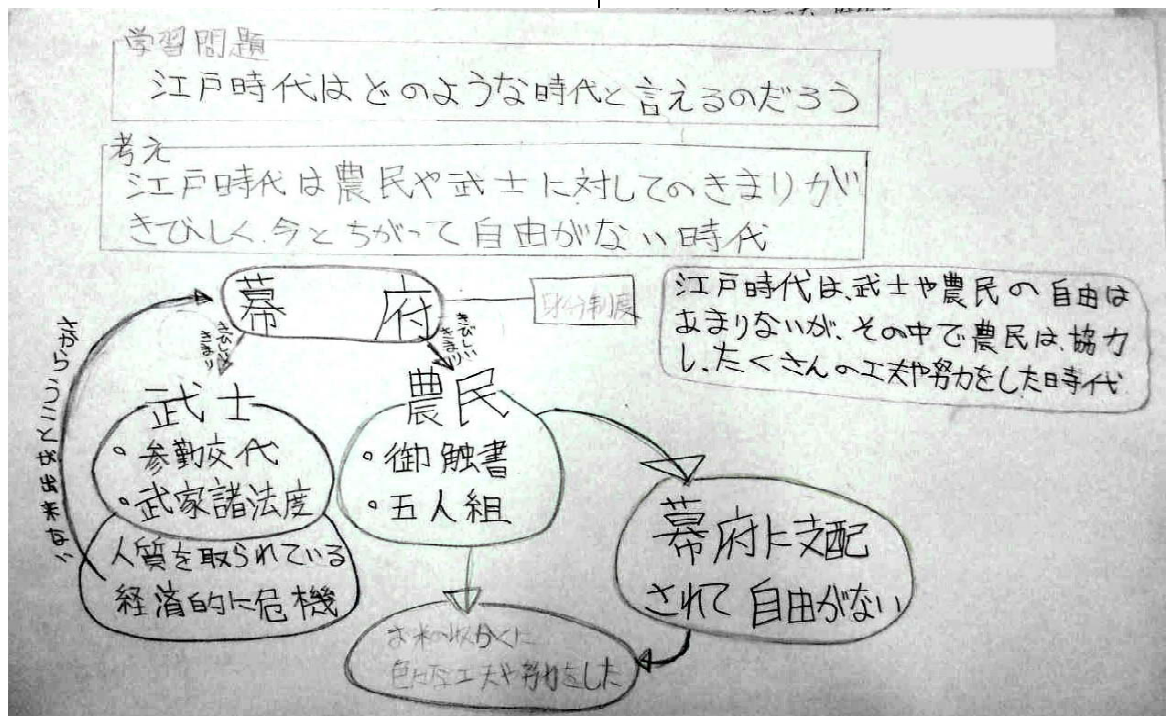
- ・代表児による発表
- ・自分の図との考えの交流

- 江戸時代は武士や農民町人にとって厳しいとりしまりが行われ、厳しい時代であった。
- 江戸時代は決まりが多く厳しい時代であったが、農民は力し社会を築いていた時代であった。

○ 自分なりの考えを伝え、お互いの考えをより確かなものにするために、説明の際は自分がもっと大切であると考えた理由を中心に発表させる。

○ どの子の発表も視的に捉えることができるようにするために代表児の図は大し板に示できるようにする。

①



(資料6 江戸時代はどのような時代か児童の考えを明らかにするための表現)

まとめ

① 本時

(2) 江戸時代の年表を見ながら、考えを見す。

○江戸時代は、新しい学問や日本 特有の文化がおこっている。

(3) 交流後の 個人的な自分の考えについて発表する。

「江戸時代は江戸幕府が、大名や農民・町人が幕府にさからうことがないように厳しいきまりをつくり、参勤交代を禁止したり、外国との交流を制限したりしてその時代を安定させようとした。しかし、その中で町人文化が生まれたり、新しい農具を発明したりして、人々は、たくましく生きていた時代。」

○ 江戸時代を 厳しい時代というようにとらえている児童に新たな視点をあたえるために江戸時代の文化や学問の様子が見える年表を示す。

○ 交流後は、時間をとり 個人的な自分の考えを付加・修正する

○ 「今日の学習で」代表の子ども数名に自分の考えを発表させる。

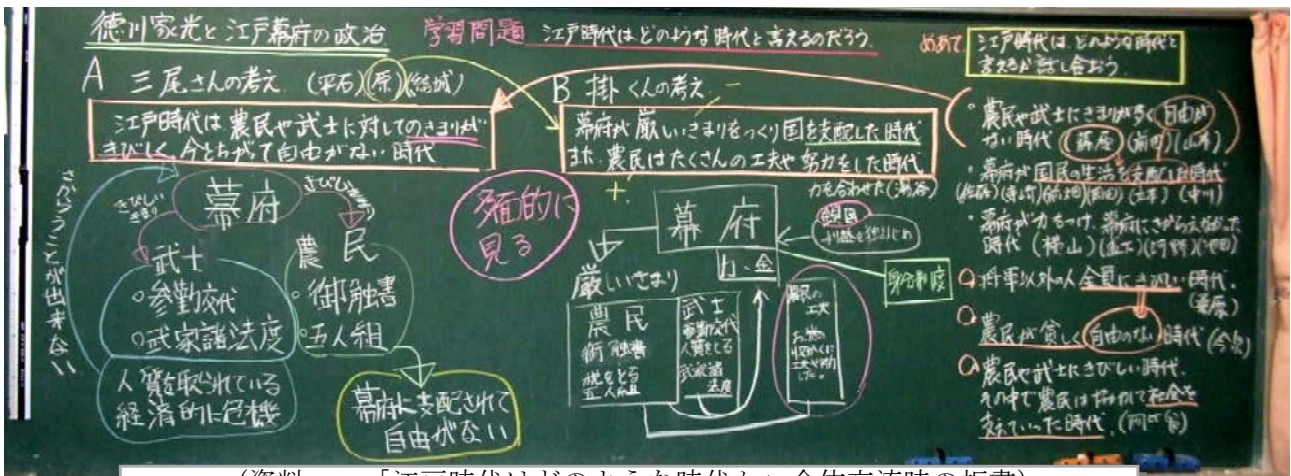
- ・考えが変わったところとその理
- ・考えが変わらなかったその理



5 本時の目標

- 江戸時代はどのような時代といえるのか、江戸時代の町人文化と新しい学問が興ったことが分かる年表を見ながら、自分の考えを見ることが出来る。(考える力)

6 本時指導の考え方



(資料 「江戸時代はどのような時代か」 全体交流時の板書)

- 児童は前時までに、教科書や 読本を使って、武家諸法度による大名統制や慶安の御触書に見られる農民統制、身分制度の確立、鎖国政策などの江戸幕府の政策について調べ、江戸時代を自分なりに捉えている。本時は、江戸時代がどのような時代といえるのか、年表を使って事実を読み取り、安定した時代、町人の文化が えた時代、新しい学問が興った時代、という の面から時代を見ていく。そのことを通して考えを深めていく時間である。

(1) のために・・・考えを付加・修正し、深めるために

- 児童がこれまでに持った考え
  - ① 江戸時代は決まりが多く厳しい時代
  - ② 江戸時代は決まりが多く厳しい時代だが、農民は色々な工夫や 力をして社会を えていった時代
  - ③ 幕府が国民の生活を した時代

○ 深めさせたい考え1 目標

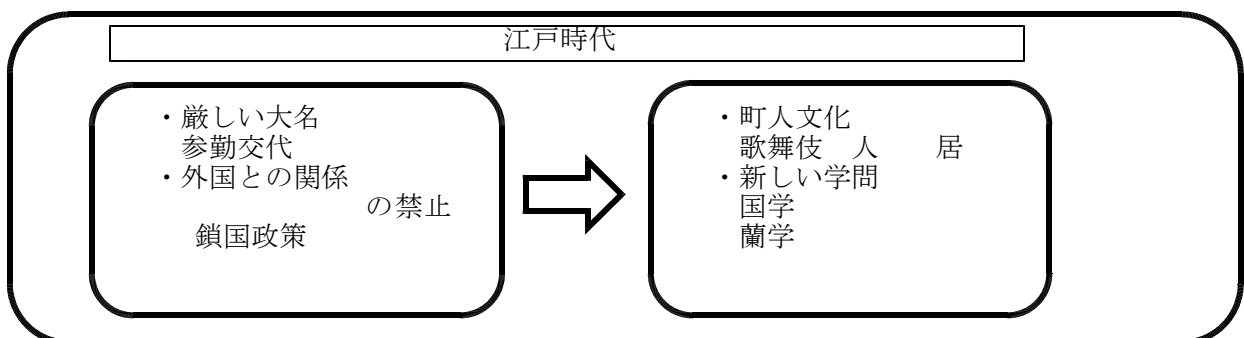
「江戸時代は江戸幕府が、大名や農民・町人が幕府にさからうことがないように厳しいきまりをつくり、 教を禁止したり、外国との交流を制限したりしてその時代を安定させようとした。しかし、その中で新しい農 具を 発したり町人文化、新しい学問が生まれたり、人々がたくましく生きていた時代。」

(2) を・・・江戸時代の町人文化や新しい学問の興りがわかる年表を

- 江戸時代後半の年表とは
  - ・近松門左衛門による歌舞伎、歌川広重の東海道五十三次などの町人文化や、杉田玄白、伊能忠敬、本居宣長などによる、蘭学や国学などの新しい学問が興ったことがわかる年表を 示す。

(3) どのように・・・江戸時代 期の年表や自分の考えを表した表現 と べながら

- 江戸時代を 一つの視点から捉える。





7 本時の展開

学習活動と内容	・ 意点
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>学習問題</p> <p>江戸時代はどのような時代といえるのだろうか</p> <p>めあて</p> <p>江戸時代の文化や学問の様子がわかる年表を読み取り、江戸時代がどのような時代といえるのか自分の考えを見よう。</p> <p>2 代表児2名がこれまでの自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 江戸時代は武士や農民町人にとって厳しいとりしまりが行われた時代であった。</li> <li>○ 江戸時代は武士や農民町人にとって厳しい時代であったが、農民が工夫をして武士をえた時代。</li> </ul> <p>3 江戸時代後半の年表を見て、読み取った事実からもう一度自分の考えを見よう。</p> <p>(1) 江戸時代後半の年表を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町人文化・・・歌舞伎、人形浄瑠璃</li> <li>・ 新しい学問・・・国学 蘭学</li> </ul> <p>↓</p> <p>・ 新しい文化や、学問が興ったのは安定していたから。</p> <p>・ 人々はたくましく生きていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 江戸時代は武士や農民町人にとって厳しくなく、安定したよさい時代であった。</li> </ul> <p>(2) 読み取った事実をもとに自分の考えを発表する。</p> <p>江戸時代はどのような時代といえるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 江戸時代は文化が盛んな時代。</li> <li>○ 新しい学問が生まれた安定した時代。</li> </ul> <p>今日の学習について発表する。</p> <p>「江戸時代は江戸幕府が、大名や農民・町人が幕府にさからうことがないように厳しい決まりをつくり、禁教を禁止したり、外国との交流を制限したりしてその時代を安定させようとした。しかし、その中で町人文化が生まれたり、新しい農具を発明したりして、人々は、たくましく生きていた時代だといえると思います。」</p>	<p>それぞれの発表の際、意見をかきとらさせるために、これまでの学習で活用してきた資料を示し、確認することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの自分の考えを振り返らせるために、代表児に考えを発表させる。</li> <li>○ 発表後の交流活動を活発に行わせるために、異同点や、相違点などについて話し合える力（話し合い・関連）</li> <li>○ 自分の考えを多面的に見せるために江戸時代の年表を示し読み取らせる。考える力（読み取り・関連）</li> <li>○ 事実の上で立って考えることができるようにするために、意味がわからないものについては、その場で教科書を使って調べさせる。</li> <li>○ 江戸時代は安定した時代であったことに気付かせるために、文化が発達したり、学問が興ったりしたのはなぜか考えさせる。</li> <li>○ 考えを持たせるために、どうして話し合わせる。</li> <li>○ 自分の考えのよさに気付かせるために「今日の学習で」代表の子ども数名に発表させる。</li> </ul>